ぐんまで頑張る職業人の熱意をレポート！

柴崎龍吾の課外授業

Vol.31

うすい学園代表取締役の柴崎龍吾が街に飛び出して、元気に働く人にインタビュー。
子どもたちのために、職業の多様性や働くことの意味を毎号レポートしていきます！

fmgunma 86.3

エフエム群馬にて**インタビュー内容を放送中！** 毎週月曜 ワイド番組「ユウガチャ！」内 16:41頃～

うすい学園代表取締役　柴崎龍吾

大学在学中に劇団を主宰し、卒業後は放送作家として活動。1975年に個人塾「横川学習塾」を開校し、以降、うすい学園を展開。子育てや教育に関する著書多数、ラジオ番組出演中。

今月の職業人

農業生産法人 株式会社 赤城深山ファーム 代表取締役 髙井眞佐実さん

▲現在、そばの単位面積当たりの収穫量で群馬県は全国1位。その1/3を赤城深山ファームが担っている

◀「そば優良生産表彰」農林水産大臣賞、「フード・アクション・ニッポンアワード」優秀賞、「農業コンクール」農林水産大臣賞など、そばの品質や取り組みが評価され受賞多数。赤城深山ファームには全国各地から農家や団体の研修申し込みがあるという

考える力を礎に そば粉生産の可能性を拓く

柴崎　今回は渋川市赤城町でそば粉の生産をしている赤城深山ファームの髙井眞佐実さんにお話を伺います。赤城深山ファームさんは、非常に高品質のそば粉生産と収穫量の多さで、全国から注目を集めています。そばの栽培を始めたきっかけを教えて下さい。

髙井　もともとは東京でそば店を営んでいたのですが、平成3年に店を閉めました。おかげさまで繁盛してましたので、とにかく人手が足りなくて忙しかった。このままでは店を回せないと感じたのが理由のひとつです。同時に、コンビニエンスストアが台頭してきた時期で、安価な商品に、今後は太刀打ちできなくなるだろうという思いもありました。

柴崎　先見の明がおありですが、不安はありませんでしたか？

髙井　なかったです。先を見なければ今はありません。常に世の中を見回して先を考え、今成すべきことを考える。それが私の持論です。だから、店を閉めるのに不安はまったくありませんでした。

柴崎　その後、そばの生産農家になった経緯を教えて下さい。

髙井　そば店を閉める前から、今後は環境問題が世の中で重要になるだろうと考えていました。そこで、自分なりに環境問題に携わる方法を考え、農業を始めたんです。当初は植木とテーマパークなどに飾るディスプレイ用カボチャの栽培、そしてそば栽培を行っていたのですが、最終的にはそば一本に絞りました。

柴崎　そばは単位面積あたりの収穫量が少ない作物ですね。つまり利益を出しづらい。それでもそばの生産農家に踏み切った理由はなぜでしょうか。

髙井　おっしゃる通り、そばは収穫量が少ないので、専作で行うのは全国的にも稀です。でも、そば店を営んでいた経験から、どのようなそば粉を店が求めているのかは分かります。ならば、皆が求めるオンリーワンのそば粉を作れば、単価を下げることなく事業として成り立たせることができる。そう考えました。

柴崎　農家が値付けできる作物の栽培。頭では分かっても、実行するのはとても難しいことです。こだわりはどのような部分でしょうか。

髙井　当社は化学肥料と農薬を一切使いません。土づくりも除草も非常に大変ですが、そこに妥協はしません。また、そばは穀物のなかで一番変質・劣化しやすいので、収穫のタイミング、穀粒温度、水分量の一定化なども徹底して管理します。これによってそば本来の色、香りを保ちながら商品として出荷するのです。

柴崎　全国の名店が御社のそば粉を買い求める理由が分かりますね。今後農業を目指す人にアドバイスをお願いします。

髙井　とにかく徹底して考え抜くこと。商品力のあるものを作れば、農業はビジネスチャンスに溢れています。ぜひ頑張ってほしいですね。

柴崎　6次産業にも取り組む赤城深山ファームの、高い商品力を生み出すための妥協なき信念と行動力には驚かされるばかりです。また農薬を使わないことで、次世代に優良な農地を引き継ぐことまで考える髙井さんの深謀遠慮は素晴らしいと感じました。それではまた次回！

USUI
高崎・前橋・伊勢崎・安中・太田周辺の学習塾。
中高一貫教育や幼児～大学受験生までの一貫教育に強い地域密着型学習塾「うすい学園」
☎027-310-1919　http://www.usuigakuen.co.jp/
うすい学園公式 Facebookはじめました。「柴崎龍吾の課外授業」の過去記事もUPしています。ぜひご覧ください。